

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年4月)

～インバウンドの増加や感染の収束等で、現状判断は続伸～

- 景気ウォッチャー調査・4月調査の近畿地域の結果は、現状判断が56.4と前月比で5か月連続の上昇(+1.2ポイント)となった。好不調の目安となる50も4か月連続で上回っている。一方、先行き判断は56.4と5か月ぶりの低下(-0.1ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンドの増加傾向が続く中、百貨店やホテル、レジャー施設等で好調な動きが続いている。中国本土からの観光客はまだ限定的ながら、その他の地域が改善し、全体を牽引する形となっている。旅行関連では、全国旅行支援の継続により、国内客の動きも続いている。さらに、コロナ禍の収束傾向が続く中、マスクの着用が緩和されたほか、5類移行も近付いていることで、各業種での客足の増加などにつながっている。
- 一方、物価やコストの上昇は続いており、多くの業種で悪影響が広がっている。スーパーや衣料品といった小売関連を中心に、消費マインドの低下や節約志向の強化が続いているほか、製造業や建設業といった企業取引関連からも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化を懸念する声が依然として多い。
- 先行きについては、インバウンドの増加に対する期待が、百貨店やホテル、レジャー施設、観光名所などを中心に引き続き大きい。特に、中国からの観光客の増加を期待する声が多く聞かれる。加えて、新型コロナウイルスが5類感染症に移行するのを受け、消費者の動きが平常に近づくとの期待から、百貨店や外食、観光関連など、幅広い業種で需要の回復が見込まれている。
- 一方、足元でコストの上昇が続くなか、物価の上昇や高止まりに対する警戒感は依然として強い。スーパーや衣料品での節約志向に対する懸念のほか、ホテルや旅館からも、コスト上昇に価格転嫁が追いつかないといった声が聞かれる。価格転嫁については、企業関連でも厳しい声が多く、幅広い業種で収益悪化への懸念が高まっている。為替も円安水準の調整がなかなか進まない中、コストや諸物価の上昇に対する不安は、業種を問わず依然として大きい。

「インバウンド」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	一般小売店〔野菜〕(店長)	・インバウンドのほか、国内客の動きも活発になり、飲食店ではかなり客が戻ってきている。一方、物価上昇の影響でセール品の購入が目立ち、定価品が売れにくくなっている。
		百貨店(服飾品担当)	・4月に入って外国人客の来店が日々増加し、都心の雑貨店では、インバウンド売上が前年の2倍以上の伸びとなっている。また、国内客を含む来客数も20%増えており、新型コロナウイルスの5類感染症への移行を想定すると、今後は更に伸びると予想される。品目別には、衣料品などのファッション関連の売上が伸びており、春、初夏の装いに好調で、高額品の売上も前月と同様に伸びている。また、コスメや食品関連も2けた増となっている。
		百貨店(マネージャー)	・マスク着用の緩和等で顧客心理が改善し、国内客の人流が活発になっている。来客数は増加傾向にあり、新生活やフレッシューズ、春休みの旅行や行楽需要など、ハレの日関連の商材が全体的に好調であった。また、インバウンドの消費も消耗品の伸びが非常に良く、全体を大きく底上げしている。
		コンビニ(店長)	・外国人客が増えてきている。

家計動向関連	良くなっている	都市型ホテル（管理担当）	・インバウンドの増加により、増収となっている。	
		都市型ホテル（フロント）	・インバウンドが完全に回復しているほか、レジャーやビジネス需要の回復で、稼働率、客単価共に上昇している。ただし、人手不足は顕著であり、受入れ側の状況としては非常に厳しい。	
	やや良くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・インバウンドのお陰で好調であり、売上に占める比率もアップしている。	
		百貨店（売場主任）	・免税売上が2018年の2倍に増えているなど、外国人旅行者による売上の押し上げが目立つ。	
		百貨店（外商担当）	・高級時計や宝飾品、海外ブランドが好調を維持しているほか、婦人服や紳士服の売上も回復基調にある。インバウンド売上も、2019年比で70%程度にまで戻ってきている。	
		百貨店（宣伝担当）	・マスクを着用していない客が増え、購買力の高い年配層の来店も目立ってきた。さらに、インバウンド消費も堅調であり、一部の商材では2019年の実績を上回っている。	
		百貨店（商品担当）	・来客数が安定しており、それに加えて外国人客の来店も多い。	
		コンビニ（経営者）	・来客数が前月よりも10%増えている。また欧米系のインバウンドが増え、売上も8～10%ほど増えている。	
		乗用車販売店（経営者）	・コロナ禍の下での3年間の生活から解放され、飲食やレジャーなどに消費が向かいつつある。インバウンド消費も回復してきたため、景気は上向きに感じる。	
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・来客数は伸び悩んでいるが、客単価は前年比で100円上がっており、客は値上げを受入れざるを得ない状況にある。マスクを外してよい状況でも、マスクの売行きは余り落ちておらず、脱マスクには少し時間が掛かると感じている。一方、インバウンドは新型コロナウイルス感染症発生前よりも増えている。	
		観光型旅館（経営者）	・インバウンドが増え始めたほか、少人数の団体客なども徐々に動き出している。	
		都市型ホテル（管理担当）	・インバウンドの増加で、宿泊客に占める外国人比率が上昇しているほか、来客数全体も増加している。	
		都市型ホテル（総務担当）	・宿泊の利用は、全国旅行支援もあってレジャー目的が多く、海外からの客も増えているが、宴会の利用の回復は芳しくない。特に、レストランはディナーの時間帯の利用が予想以上に増えていない。	
		都市型ホテル（客室担当）	・物価の上昇が続くなかでも、インバウンドは増加する一方であり、国内需要も高単価、高稼働での推移となっている。宿泊業では消費が増えていることを実感している。	
		タクシー運転手	・当地域は観光客の7～8割が外国人となっており、かなり良くなっている。	
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・インバウンド、国内観光客共に、引き続き増加傾向にある。	
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・インバウンドは一気に復活しそうであるが、一般の商店には何の追い風にもならない。生活者が景気の向上を実感できるようになることが大切である。	
		百貨店（企画担当）	・外国人を含む、観光客の姿が増え始めた。ただし、街全体の人は増えているが、各種の値上げが消費行動にマイナスの影響を与えている。	
		変わらない	百貨店（企画担当）	・海外からの観光客による免税売上は確実に増えている。また、中国本土からの観光客が増えた影響で、免税売上に占める化粧品割合も17%程度と、前月比で5ポイント増えている。国内売上では、外商客の売上が前年比で2けた増えたほか、外商を除く売上も比較的堅調に推移している。
			百貨店（販売推進担当）	・インバウンドを除き、来客数はほぼ以前の水準に戻ってきたが、中国人旅行者の回復が遅れており、全館レベルでは前年並みにとどまっている。
コンビニ（店長）	・来客数は微増で、欧米からの観光客が増えているように感じる。度重なる値上げによって客単価が上がっているため、景気は悪くない。ただし、観光客の増加を除けば、良くも悪くもないように感じる。			
その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・前月以上に海外からの観光客が増え、春休み頃からは若年層の動きも増えたが、売上の増加にはつながっていない。ただし、催事の客については、購入率が上昇している。			
企業動向関連	やや良くなっている	食料品製造業（営業担当）	・インバウンド効果で飲食店の客足が増え、飲料水の売上が少し良くなっている。	
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・物価上昇の懸念は残るが、3年以上続いたコロナ禍が収束しつつあり、インバウンド効果も出始めている。当社の製品は需要に供給が追い付かず、不足気味であるが、限定的ながら値上げ効果が出てきている。売上は順調に推移しているため、やや良くなっている。	
	ない	金融業〔投資運用業〕（代表）	・インバウンドが徐々に戻り、その恩恵を受ける企業は業績の回復が進んでいるが、円安と物価の上昇が全く解消できない状況では、根本的に景気浮揚が進むことはない。	
雇用	なっている	人材派遣会社（管理担当）	・観光地に外国人客が多く訪れるようになり、観光業も活気があふれるようになってきた。それに伴い、求人数が増加している。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・3か月前と比べると、インバウンドの増加もあり、飲食店や観光業などは景気が良くなっている。	

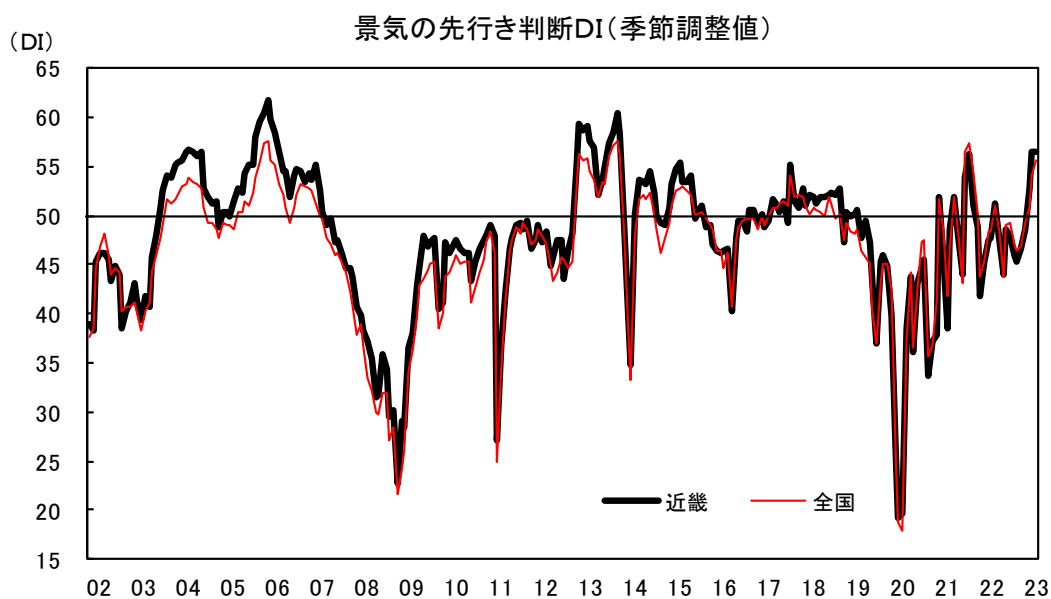
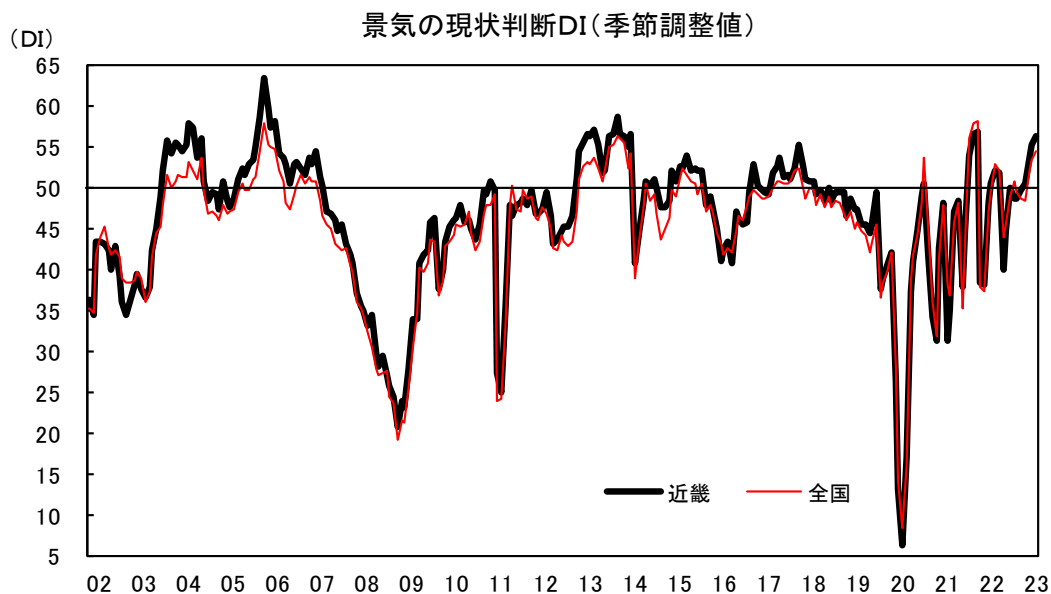
雇用関連	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・繁華街では、外国人観光客を多く目にするようになった。観光業界に活気が戻りつつある一方、食品などの物価の上昇が相次いでおり、消費は一時的に伸びても長続きしないことが懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・コロナ禍が落ち着き、インバウンドが戻って活況を呈しているが、関西企業の広告、プロモーション予算は、3か月前からほぼ横ばいの状況である。
		その他雇用の動向を把握できる者	・インバウンドの回復や先行きへの期待、人手不足を背景に、求人への堅調な持ち直しが続いている。ただし、建設業や製造業を中心に、原材料価格や燃料価格が高騰するなか、価格転嫁が進まないことで利益が圧迫されているなど、一部に厳しさがみられる。一方、求職者の動きは、年明け以降の求職活動の活発化に一服感がみられる。

「新型コロナの5類移行」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良くなる	百貨店（服飾品担当）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行により、マスクを外す人が増え、ファッション関連の伸びが期待できるほか、コスメ関連の売上増加も見込まれる。また、外国人の来客数も月ごとに増えると予想され、インバウンド売上の伸びも更に加速すると予想される。今後は消費の明るいムードが期待される状況で、特に自分のための消費が増える。
		百貨店（売場マネージャー）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行、全国旅行支援の継続、中国からの個人旅行の増加などで人流が活発になり、消費にも好影響が出る。社会や経済に対する一定の効果が予想されるが、物価の上昇が続くことで、消費の2極化が顕著となる可能性も高い。
		高級レストラン（企画）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行が、観光や飲食需要の押し上げにつながる。
		旅行代理店（役員）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行により、3世代での旅行を中心とした家族旅行が増える。
	やや良くなる	百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、行動規制がなくなることで、客の消費意欲が高まる。また、中国からの旅行者が入国規制の緩和で増加し、インバウンド売上が更に伸びると予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・5月前半に新型コロナウイルスが5類感染症に移行する。その際、マスクの着用などの緩和が期待され、店内での飲食や試飲、試食のほか、化粧品などの試用なども積極的に実施できる。それに伴う買上率の上昇や来客数の増加により、売上の増加が見込まれる。
		一般レストラン（企画）	・ゴールデンウィーク明けから、新型コロナウイルスが5類感染症に移行することで、日常生活や店舗からコロナ禍の影響がほぼなくなり、外食需要が高まる。ただし、原材料価格の高騰や人手不足などで、経営環境は更に厳しくなると予想される。
		都市型ホテル（客室担当）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行もあり、あらゆる面で開放的になり、しばらくは消費の増加が続くと予想される。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行を受けて、観光需要が高まると期待される。また、現在は少ない、中国からのインバウンドの増加にも期待できる。
	変わらない	百貨店（店長）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行後に期待したいが、物価の上昇が続くなか、大きく消費が跳ねることはない。また、都心への人の移動が活発化する一方、郊外の店舗は現在と変わらず、停滞が続く。最近では郊外のモールでも、テナントの入替えがうまく進んでいない。
		百貨店（営業推進担当）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、消費マインドは上向くものの、原材料価格の高騰による値上げの動きは続くため、大きな伸びは期待できない。
		百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行に伴い、顧客の購買意欲がますます旅行やレジャー、イベントといった分野にシフトするため、当社の扱う実需商品はほぼ横ばいの推移となる。
		スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、以前の状況にほぼ戻る。既に外食や宴会需要も戻りつつあるほか、内食傾向は完全に元には戻らないものの、減少が見込まれる。今後、賃上げの好影響と物価の上昇によるせめぎ合いにより、スーパーの売上は左右されるが、少し良くない予測をしている。
		競艇場（職員）	・全国的に売上はピーク時よりも少し減少傾向にあるが、年度が替わった4月も、安定した売上を維持できている。新型コロナウイルスの5類感染症への移行による影響を見極める必要があるが、しばらくは高止まりのまま推移すると予想される。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・食品などの継続的な値上げで、消費マインドが低下する懸念があるほか、新型コロナウイルスの5類感染症への移行後の状況も不透明である。世界情勢も金融不安やウクライナ危機などで不安定であり、方向感が読めない。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・5月8日以降、新型コロナウイルスが5類感染症に移行する。プロ野球の試合やコンサートも、以前の状況に戻ることを期待している。
	やや悪くなる	一般小売店〔時計〕（経営者）	・客との会話では、まだコロナ禍関連の内容が多い。新型コロナウイルスの5類感染症への移行による変化や、感染第9波の到来の有無など、どちらかというと明るい話題ではなく、後ろ向きの内容が多い。気持ちが上向きになり、買物を楽しむという雰囲気は今のところはないため、景気が良くなるとは思えない。

家計関連	やや悪くなる	競輪場（職員）	・前年の傾向と比べて悪くなりつつある。ただし、新型コロナウイルスの5類感染症への移行で行動制限がなくなるため、期待したい。
	企業動向関連	やや良くなる	窯業・土石製品製造業（管理担当）
変わらない		食料品製造業（営業担当）	・ゴールデンウィーク明けの5月8日から、新型コロナウイルスが5類感染症に移行することで、新規感染者数は少し増えると予想されるため、外出する人の数はそれほど変わらない。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、日常生活に戻っていくため、このまま好調な状態が続くと予想される。
		司法書士	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行で動きやすくなる一方、値上げが止まらないため、節約志向が強まっている。
雇用関連	やや良くなる	人材派遣会社（役員）	・海外からの観光客も多くなるなど、人流が相当増えるほか、新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、本格的に景気の回復が進む。ただし、ウクライナ危機の推移や中国の情勢のほか、国内での増税議論が本格化することで、回復の動きに水を差すおそれがあるため、十分に注視していきたい。
		学校 [大学]（就職担当）	・マスクの着用が緩和されたほか、新型コロナウイルスの5類感染症への移行を控えたなかで新学期を迎え、学生の購買行動も上向いている。歓迎会や親睦会も再開されたほか、ゼミ旅行や課外活動の合宿など、学外に出向く活動も増加する。
	変わらない	学校 [大学]（就職担当）	・ゴールデンウィーク明けの、新型コロナウイルスの5類感染症への移行による影響は不透明であり、まずは様子をみたい。
		その他雇用の動向を把握できる者	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行や、インバウンド需要の更なる回復など、社会活動や経済活動の正常化が進むなか、人手不足感の高まりもあって、求人は引き続き堅調に推移する。一方、求職者の中には、労働環境や労働条件の改善のために求職活動を始める動きもあるが、全体的な動きの活発化はこれからである。事業所に対し、今年に取り組む経営課題の聴き取りを行ったところ、販売価格の見直しや価格転嫁という回答が一番多く、この課題への対応が雇用に影響を及ぼすと予想される。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		21年				22年								23年												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
現 状 判 断	近畿	31.3	34.9	47.0	48.3	37.9	44.5	54.0	56.5	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6	55.2	56.4
	(全国)	38.1	36.9	45.8	48.1	35.1	42.7	56.0	58.0	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0	53.3	54.6
先 行 き 判 断	近畿	38.6	48.6	51.8	47.7	44.0	53.9	56.3	51.1	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7	56.5	56.4
	(全国)	41.7	46.7	51.9	48.2	43.2	56.6	57.3	54.3	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8	54.1	55.7

※季節調整値